Scout Voice ISHIKAWA
スカウトボイス石川
Vol.5

発行：ボーイスカウト石川県連盟
石川県金沢市平和町 1-3-1
石川県平和町庁舎内
発行責任者：野田 政弘
編集責任者：宮東 剛文
平成 28 年 12 月 5 日発行

Scout Voice

金沢 第 11 団　カブ隊　田村　蓮香

金沢市少年の翼で今年７月に行った屋久島のウィルソン株（屋久島の古木の木株部分）の中から撮った写真です。ハートの形がきれいで、中から大自然が見えて感動しました。

Supporters Voice

『チカモリ縄文まつり 奉仕活動』
金沢第 22 団　中社圭一（指導者）

金沢市西南部公民館主催の「チカモリ縄文まつり」が８月７日(日)、チカモリ遺跡公園を会場に開催され、我々金沢第 22 団では、ボーイ隊以上のスカウト・指導者・リーダー・団委員が、会場内の各コーナーにて奉仕を行ないました。
会場のチカモリ遺跡公園は、我が団の活動拠点にもなっている金沢市西南部地区にあり、国指定史跡「チカモリ遺跡」に整備され史跡公園です。ここを会場に毎年開催されている「チカモリ縄文まつり」は、縄文時代の体験ができるコーナーや、縄文食のふるまいなど多彩なプログラムを通じて、古代の生活を体験するイベントとなっています。
奉仕の内容については、ボーイ隊は会場内の各コーナーにおいて体験者数の集計と報告、指導者・リーダー・団委員は、会場内の準備から始まり、「火起こし体験コーナー」で体験者への指導、「縄文食試食コーナー」での調理などのお手伝い、そして会場内の後片付けをさせていただきました。
当日は立秋とはいえ、まだまだ残暑の厳しい一日でしたが、たくさんの方の来場があり、我が団のビーバー隊とカブ隊のスカウトたちも隊活動として参加し、各コーナーを体験しながら古代の生活などを学ぶことができました。
　今後も、このような地域の方々と触れ合う場にも参加をして、我々の活動を知ってもらい、団の拡充につなげていきたいと思います。

Leaders Voice

『ビーバーの集いに参加して』

金沢第２１団ビーバー隊長　小島　武

小春日和になった１１月１３日（日）石川県森林公園（津幡町）の南口運動広場から松葉台広場に至る森をフィールドに、ボーイスカウト石川県連盟金沢地区の「ビーバーの集い『森の秋祭り』」が開催されました。金沢と津幡のビーバーが集まり、運動広場でみんなで大きな輪をつくり、お祭りスタート。「じゃんけん列車」のゲームでウォーミングアップし、やわらいでから、紅や黄色にそまる樹木の森の中を、カラーリボンをたどり、木の葉やドングリ、松ボックリを拾いながらの移動。途中、フクロウおじさんに出会ったり、赤いつり橋をロープにつながりながら、渡ったり、してお祭り広場に到着。道中に拾ったドングリや松ボックリをお金に見立て、風車づくり、ブーメランづくり、ドングリ独楽づくり、的当て、シャボン玉、劇、お鍋のお店を回り、楽しんで、クローバーのシールを集めていきました。お鍋のお店のめった汁と持参のスカウト弁当（おにぎり）で昼食をとり、明るい森のさわやかな風に吹かれ、ワイワイガヤガヤ歓声をあげて一時をすごしました。終わってみれば、楽しかった、面白かった、の感想を胸にみんな家路につくことができました。

隊長として、指導者として、参加した一人一人のスカウトの幼いころの森での良き思い出として心に残るといいなと、これからひろがるウッドクラフト活動につながって発展していくといいなと、大きな夢を見た一日でした。

『1 年を振り返って』

小松３団ビーバー隊長　寺田正夫

私は、ボーイスカウト小松３団ビーバー隊長を務めさせていただいております、寺田と申します。私には 2 人の息子がいて、兄は琥珀(小 2)、弟はひすい(年中)といい、2 人ともビーバースカウトの活動に参加しています。この場をお借りして、2 人の 1 年間を振り返りたいと思います。

2 月には琥珀が初めてのスキー体験として、スキー場で転びながらもスキーを体験できました。今年はリフトには乗れませんでしたが、来年には再びスキー場でリフトに乗れるよう、チャレンジしてほしいものです。

また、8 月には、富山市中央植物園で、オオオニバスの葉の上に乗るイベントに隊集会としてひすいが参加し、カエルが大好きなひすいは、葉の上に乗ることをずいぶん前から心待ちにしていました。当日はオオオニバスの葉の上に乗ったり、大きな葉っぱの下に入ったりと、とても楽しそうでした。これを機にひすいは隊集会の出席が増えました。

そして、10 月に白山市松任総合運動公園で行われたカブ・ビーバーの集いでは、兄弟が同じチームで、チームの仲間と力を出し合い、助け合い、そして楽しく過ごし、総合で 2 位の好成績を収めることができ、優秀綬をもらって家に帰っても、それを見てうれしがっていました。

この 1 年を振り返ると、兄琥珀は、喧嘩することなく、みんなと仲良く過ごすことができ、弟ひすいは、これまで出席率が悪く、隊集会に出ても途中でリタイアしていましたが、最近は自ら制服を着て、進んで隊集会に出るようになりました。二人とも大きく成長したように思えます。来年も、琥珀はカブ隊に上進し、ひすいは正式にビーバー隊の一員になります。これからの二人の成長に期待したいです。

『ウッドバッジ研修所（カブ過程）』

金沢第１団　カブ隊副長　藤田 智志

先日、石川県加賀市にて開催されましたウッドバッジ研修所に参加しましたので、僭越ながら一筆させていただきます。

まず、本研修に参加されました講師、参加者の皆様におかれましては非常に多忙の中、遠くは長野県松本市、富山県からもボーイスカウトの活動に賛同し、志の高い方々が集い、グループワークでは個々人のこれまでの経験の有無に関わらず、最後まで私奴に同目線で接していただいたことに改めて感謝すると共に敬服いたします。

私のカブスカウトだった頃、今から 25 年ほど前の話し、隊長は故 能上良枝隊長（故 能上正則氏御母堂）、副長は一谷 耕二 現金沢第 1 団副団委員長でありました。当時、私の子供だった頃は能上隊長＝エライ人、一谷副長＝隊長の次にエライ人という認識にしかありませんでした。もちろん、子供であった私は日々の活動、キャンプの意義は到底に理解しておらず、ボーイスカウトとは『学校で教える時間の無いことをボーイスカウトで教えてもらう。』そして『サバイバル訓練をさせてくれる場所提供』程度にしか認識しておりませんでした。

私はうさぎだった頃、夏の団キャンプで一谷副長はもう一人の副長と共に４組それぞれにテントを張ってくれました、現在ではドームテントが主流ですが、その当時はそのようなものは普及していません。そういえば、先日にキャンプでスカウトたちと一緒にドームテントを立て、テントに入った子供たちの感想文では「テントが楽しかった。」というコメントがありました。能上 正則（当時シニア）隊長はハイキングの道中、医王山の山中でみすぼらしい布の服を羽織り、浮浪者の演技をして子供目線に接し、雰囲気を出して子供達に課題の解答を考え易い場の提供をしてくれました。

能上良枝隊長は平成２年のラルフローレンデザインの制服に移行にする時、石川県で行われた全国大会にて、新制服御披露目ファッションショーでは、国内で初めて公に見せるカブ隊の新制服を着用するスカウトとして私を選び、初練習から本番最後まで私の傍らに付き添い、見守ってくれました。

今思えば、指導者に共通している事は、まず最初に『スカウト（子供）を楽しませる。』事でありまして、人間教育を大義として、細かなひとつひとつのリーダーの気配り、行動は様々な要素が含まれている。と気付くことができました。そして指導者は子供に気付かれないように緻密に他のリーダーと連携しプログラムを計画して、子供たちを楽しませるプロデューサー、コーディネーターでなければならないということも知りました。これまでスカウトの時のままの気持ちでいた隊長＝エライ人、副長＝隊長の次にエライ人の印象が払拭されました。

本研修は『隊長としての心得を知る。』という目的ですので、『隊長の責務』も勉強したわけでありまして、隊長ハンドブックには記載されていない単語ですが、私奴なりの解釈としまして、リーダーはスカウトを中心として各リーダーでスカウトを囲んだ円になり、『スカウトを【チームアプローチ】していく。』という考えに辿り着きました。本意は隊長がプログラム、活動、発生した問題・課題の対応に１人で仕切り、単に副長、副長補、デンリーダーに指示するだけではなく、リーダーみんなで協力してやっていく。それすなわち、隊長のみが孤独に責任を負うことを防ぎ、指導者としてのバーンアウトを防ぐことにも繋がります。

これまでは副長としてスカウト達を見守るのみが我の職務と思っていましたが、本研修に参加して、ボーイスカウトの活動組織は確固に具体化、組織体系されていることも初めて知り、これまでの自分のボーイスカウトに対しての思いの意識改革ができたと思います。

先に書きました御三方には及びませんが、原隊に戻っても今回の研修を生かしていければと思います。

プログラムレポート

【平成２８年度 団・隊指導者・地区役員・県連盟役員合同交歓会(懇話会)】

日時：平成２８年１２月３日（土）～４日（日）
場所：能登・志賀の郷温泉　いこいの村能登半島

１２ 月３日～４日、志賀町「いこいの村能登半島」にて、団・隊指導者・地区役員・県連盟役員合同交歓会が開催された。ボーイスカウト日本連盟事務局長　木村公一氏を講師にお迎えし、「BPが意図するウッドクラフトとは？」をテーマにご講演いただいた。

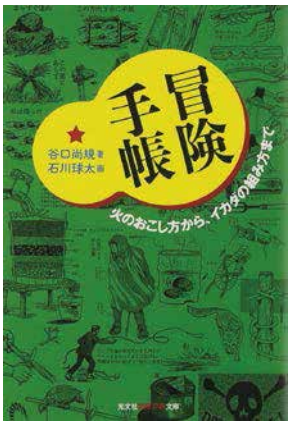
ウッドクラフトとは、森林生活法や野外生活法とも訳され、野外を教場としたスカウティングの根幹である。指導者はウッドクラフトの知識・技能・スピリッツを習得し、「冒険心」に満ちたプログラムを展開しなければならないとのことであった。参考図書として「冒険手帳（光文社）」の紹介もあった。

講演会終了後は、懇親会があり、冒頭、石川県連盟先達の出島信直先生の米寿のお祝いがサプライズでなされた。

出島先生、これからもお体に気をつけて、長生きしてください。

講演の　木村公一氏

米寿を迎えた出島先達



お薦め図書「冒険手帳」

BP Voice

『制服を着ること』

スカウトの制服が統一されているのは、世界中の少年の兄弟愛のきずなを示すものだ。一人ひとりのスカウトが制服を正しく着て、きちんとした身なりをしていることは、この運動の名声を保つことになる。自分に誇りを持ち、隊に誇りをもっていることも表している。

それに反して制服の乱れただらしないスカウトが一人いると、一般の人に与えるこの運動全体の印象を悪くする。そんな者は、必ずほんとうのスカウト精神をつかんでいないし、この偉大な兄弟愛運動の一人であるという誇りをもっていない。

（ｽｶｳﾃｨﾝｸﾞ ﾌｫｱ ﾎﾞｰｲｽﾞ 第 １ 章スカウト技能より）

スカウトボイス原稿募集

スカウトボイスは、石川県連盟所属のスカウトの声を幅広くお届けする情報誌です。皆様からの、感動した、楽しかった、苦しかった、友情輪が広がった、等々のエピソードをお寄せください。

併せて面白い写真もお寄せください。

手書きの原稿も受け付けております。スキャナー取り込みデータまたは原稿をデジカメで写して下記投稿フォームよりお送りください。

写真・スカウトボイス投稿フォーム
http://scout-ishikawa.jp/member-info/
Text、Word、Excel、PDF、JPG 等々に対応

「ならんだー」金沢 12 団副団委員長　広野良一